

農報

水稲



6月の水稲情報



水稲

吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

品質維持は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。

そのため、間断かん水による水管理を励行しましょう。収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米や粒張り不足・胴割れ米の原因となり、品質や食味を落とします。

田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲刈りに支障のない限り落水期は延長してください。(刈り取り5～7日前まで水田を乾かさないようにしてください。)

適期刈り取りの励行について

1穂初めの85%（籾黄化率）程度黄色く熟れる頃が収

穫最適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので、注意が必要です。目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から30日たった頃です。

病害虫防除

いもち病、カメムシの予防防除対策として出穂期と、穂揃い期の2回の防除を行ってください。散布の際は使用基準を遵守し、飛散等のないよう心がけてください。また、散布された際には、栽培管理台帳への記入をお願いします。

農薬の使用上の注意事項

農薬を使用する前には、ラベルの適用内容及び注意事項を必ず確認し、適切に使用してください。作業中は農薬マスク、手袋、防除衣など適切な保護具を着用して作業しましょう。

果樹



6月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次
上島管農指導センター
080-1759-0088

6月は梅雨時期となり、病気の発生が多い時期となります。今回展着剤で入れておりますアピオンEは、ジマンダイセン水和剤の付着性を高め黒点病の防除効果を高めます。雨の多いこの時期には必ず混用し、商品性の高いみかんをつくりましょう！

1. 病害虫防除

項目	時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州・中晩柑	上旬～下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル 97%	150倍	混用散布
		カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	スプラサイド乳剤40	1,500倍	
	中旬～下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	混用散布
		ミカンサビダニ カンザワハダニ	サンマイルト水和剤	3,000倍	
		展着剤	アピオンE	1,000倍	

※ハーベストオイル97%については、落果の多い樹・樹勢が弱っている樹には使用を控えて下さい。

※また、ハーベストオイルについては2月の寒波により散布を控えていた園地については今月中に散布を終えて下さい。

2. 葉面散布の実施

新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。緑化が遅れている園では、チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
緑化促進	葉面マグ	200倍	混用散布
	アミノジューシーN14	500倍	
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	テコボン等

3. 施肥の実施

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり施用数
通常タイプ	6月上旬	ボンカン、清見 甘夏・河内晩柑 パール柑	熊本果樹肥料 10-7-4 又は ひのくに果樹 9-3-3	5袋
		テコボン	熊本テコボン 8-3-3	4袋

4. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果期頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。特に小玉の多い「肥のあかり」を中心に内成りや天成り果を早期に除去して下さい。

5. タイベック被覆の実施（温州みかんのみ）

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけほの・早生	7月中旬～8月中旬

畜産



牛の1年1産について



畜産

山下 和彦
上島営農指導センター
080-1766-6339

繁殖牛の基本は1年1産と言われています。

このためには妊娠期間が285日なので、分娩後80日以内に妊娠することが求められます。

近年では分娩間隔の延長により経営を大きく圧迫しているのが現状です。

原因として・・・

- ・繁殖牛の発情の見逃し
- ・微弱発情や無発情牛の増加→繁殖障害等が考えられます

改善策として・・・

<発情兆候>

人工授精は生産者の方が発情を発見して初めて行うことができます。

発情を見逃さないためにも以下のことにご注意下さい。

(1)朝・昼・夕・夜の4回観察を行う。

牛の発情は朝・昼・夕、また夜中から始まることもあります。

餌やりの時間だけでなく、昼や夜の観察をすると発情発見率が向上します。

(2)発情の行動を把握する。

牛の発情の行動として乗駕行動（牛同士が乗り合う行動）があります。

放牧や運動場があるところでは、この行動で発情発見ができます。

繋ぎ飼いや運動場がない場合、発情粘液や外陰部の充血や腫れを確認しましょう。(写真1)(写真2)

※よくわからない場合は、牛同士を近づけると乗駕することがあります。

(3)発情発見器具を活用する。

近年では、発情発見システム（牛歩計）などがあります。

観察ができない時間や多頭飼育の方は検討をお勧めします。



写真1 乗駕行動



写真2 発情粘液

<飼養管理>

牛の授精率や発情兆候は、飼養管理のよって大きく左右されます。

母牛の餌の量は十分足りているか見直すといいでしょう。

(1)分娩前後の増し飼い

分娩前後の増し飼いは子牛の発育だけでなく、分娩後の発情に大きく影響します。栄養が不足しないよう飼養管理に努めましょう。

(2)粗飼料の給与

近年では、粗飼料の不足が見受けられます。空腹によるストレスは発情を阻害する恐れがありますので、分娩前後は特に十分給与するようにしましょう。

発情の発見ができない場合や、分娩後40日以内の無発情などは、家畜保健所による家畜衛生指導や担当の獣医に相談し、1年1産を目指しましょう。

野菜



甘長とうがらし今後の管理



野菜

山下 和樹
上島営農指導センター
090-5028-9494

追肥…収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a当たり14~20kg (10~14日の目安)

又は、液肥を500倍かん水する。

かん水…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることがあり、曲がり果の原因になる。

整枝…主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。
※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果…曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40~50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策

スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	2回	スリップス
アフーム乳剤	2000倍	7日前まで	2回	オオタバコガ
モスピラン水溶剤	8000倍	前日まで	2回	アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500~1000倍で散布する。

白絹病対策

リゾレックス水和剤	1000倍	前日まで	2回
-----------	-------	------	----